

クラブの不振は僕らの責任だ

自力優勝消滅で、さあ大変。「危機的状況」という言葉を、これ以上正確にかつ端的に表している現状はありえないという塩梅なのです。何しろ、5戦終わって勝ち点が8。首位の金沢が15ですから、その差はナント7。計算間違いかと思ひ、何度も電卓で計算し直したのですが、どうやら間違っていないようです。金沢と僕等の差は、2勝1引き分けという、卒倒しても可笑しくない緊急事態に瀕しています。

今回、アウェイの試合でも、「笑っていいとも！」顔負けの増刊号を発行することになったようで、何の因果か原稿を書き散らす羽目になりました。正直、悔しくて眠れないのは事実だし、ショックのあまり書くネタにも困っている有様でして、マイブームの鳥居みゆきの事なら原稿用紙100枚でも書く自信があるのに、愛する松本山雅の事には食指が動きません。出てくるのはネタではなく溜息ばかり也。秒刻みで逃げていく、幸せ。

……馬鹿話はこのままでして。増刊号を刷るということは、要するに「UM」が危機感を持っているということだと僕は受け取っている。誰もが現状のままでは不味い、ということが分かっている。意見の中には「金を取る試合じゃないからもう見に行かない」といった勇ましくもピントの外れまくったものが主流派を占めています。止むを得ないとは思いつつも、閉口せざるを得ない状況です。

……って、口を閉じちゃダメじゃん。僕たちの仕事は、ピッチ上の選手たちにその想いを伝えることでしょ。自分たちが戦ってないのに、「戦え、松本！」もクソもないもんだ。どんな苦しい状況でも、全てを投げ出したくなる場面でも、自分たちのレーゾンドートルを否定することだけは許されない。

さて、どうすればいい？ お手本は先の試合の金沢サポーターにあると思う。90分+15分=105分間、途切れる事無く、声を上げ、手を叩き続けた。振り返って、僕等はどうか？ 「北信越リーグ、ナンバー1」「地域リーグを代表するサポーター」の虚名に胡坐をかいていなかったらどうか？ どこかで現状に満足し、上を見ることを止めて、下ばかり向いていなかったらどうか？ 「ああ、まだ長野や金沢のサポ連には勝っているな」なんて……。気が付けば、差は縮まりつつありませ。

もう一度、初心に帰ろう。一人ひとり、手を叩こう、叫ぼう、跳ねよう、歌おう。そして、蹴散らそう。長野も金沢も石川も富山も新潟も福井も。……もちろん、JSCも。

[written by sapo]

「三度目の聖籠」
今年も、新潟県聖籠町に来てしまった・・・。
そう思う人は多いだろう。

僕が初めてここに来たのは、2006年の北信越リーグ第10節のとき。0-2で敗戦した試合だ。北信越2部から上がってきた「挑戦者」の、この年の自力優勝がなくなった日だった。2回目は、昨年の9月9日。駆けつけた200人以上のサポーターの前で決めた「北信越優勝」は、今でも記憶に残っている。優勝をかけた「挑戦者」たちの最高の結果であった。

自力優勝が消えた場所で、翌年優勝。わずかに2回しかきていないのに、自分にとっては、思い出深い場所となっている。

昨年JFL昇格を逃したため、今期もこの場所に来ることになった。しかし、これほど苦戦して第6節を迎えるなんて、誰が想像できただろう。いつの間にか、前節のツェーゲン戦で自力優勝がなくなってしまっている。でも、これから上位陣同士の星のつぶしあいはいりえるし、優勝の望みが途絶えたわけではない。

とはいえ、あまりに厳しい状況である。ゆえに、対戦相手のJAPANサッカーカレッジ (JSC) は、過去のリーグ戦ではいまだ未勝利である。(4戦2敗2分) 決して良いとはいえない状況で、分の悪い相手。もう開き直るしかないのだろうか。

そこで、昨年のリーグ優勝を決めた試合を思い出してほしい。後半40分までは負け試合だったが、残り5分で逆転。追いつかれはしたものの、その粘り強さと集中力はすごかった。

「挑戦者」は、最後の最後まで諦めるわけにはいかないのだ。

自分はこれを書いているとき、この試合にどれだけサポーターが松本から来てくれるのだろうか、ふと考えてみた。

前節敗れて後のない状況。それでも、山雅の勝利と優勝を信じて、遠くまで足を運ぶサポーターの熱さは、どのチームにも負けていないと思っている。

ただ試合を見に行くわけではない。僕らは山雅を勝たせるために行くのである。

遠征に來られない人たちのためにも、必ずや、勝ち点3を松本に持って帰りたい。

[written by shioinc]

おやじサボのUM豆知識 No.1

おはようございます。40代山雅おやじです。トラスターへの寄稿してみないか？という事で乗せられて書くことにしました。とりとめもない、且つトラスター限定の役に立ちそうで立たない話を書いていこうと思います。趣旨としては、サッカーなどまるで興味なかった40代のオサザンの経験をもとに、チームやUM (ウルトラスマツモト) との関わりあいについて、いわゆるUM予備軍というか、じわじわとゴール裏に興味をもちはじめた方へ向けた、豆知識となるような内容にしていきたいと思っています。

第一回は「アウェーバスツアーでチョメチョメ」です。

今これを読んでいる方は、すでに新潟行きのバスの中と思われそうですが、アウェーバスの一日はこんな感じの流れです。

- ・早朝、集合場所へ。半数？いや確実に1/3以上はいわゆる世間でいうUMの人たちがいます。朝からテンションの高い、なにかしら大きな荷物をもっている人たちがだいたいそうです。
- ・一見、組関係者とかその筋の人間に見える人もいます。がよくみるとぶつうの人もいますし、女性や子供もいます。チラチラと見てみましょう。ガン見しても危害は加えられませんので、安心を。
- ・同じバスに山雅サボ同士が詰め込まれ、出発。車内ではUMの人たちをじっくり観察できます。することがなければ、会話に聞き耳をたててみましょう。顔見知り同士のUMの人たちは、自然に車内や休憩で会話が弾みます。話てる内容もよくわかりませんが、ちょっと輪に入りづらい感じですね。
- ・しかし会話を聞いているとわかりますが、この人たちもあなたと同じ、ただの「山雅バカ」いや失礼、「山雅あほう」いえ「山雅好き」など達だということ。人見知りしない方なら話しかけてみましょう。例：「次、どこで休憩するんでしょうかねー」など。
- ・行きサービスエリアなどで食事をしたりします。意外と休憩は多し。
- ・アウェーに到着したら応援します。これをUMの人たちは「パモる」といいますが、これはまた別途詳しく。アウェー会場はスタンドがアルウィンほど広くなくメイン、ゴール裏と区切られていない為、間近に大旗やタイコがあります。コールリーダーと呼ばれる人が、メガホンをもって応援を先導しているのが近くに見えます。あ、あれはあー歌っているのか、とか。興味をもったら聞いてみましょう。例：「この幕、どうやって作ったのですか？」「私にも出来ますか？」「なんて叫んでるんですか？」など。
- ・試合が終われば、また帰りのバス車内です。小型バスの機動性を生かして、食事などに寄り道したりすることもあります。同じ時間を共有したもので自然と会話が出来ようになります。それでもまだシャイなあなたは引き続き観察モード、または熟睡モードで過ごしましょう。
- ・松本に帰ってきましたら、お別れの挨拶をして解散です。家につくまでがバスツアーです。田んぼのあぜや、電柱と仲良くしないよう気をゆるめず安全運転で帰りましょう。

こうして一日、同じ空間で過ごし、同じところで御飯を食べて、同じ体験をする、ということで「顔なじみ」となります。そして、またホームでお会いしましょう。スタジアムに行って、知った顔がいると少し、ホっとしたりニヤリとしませんか？自分はいつも一人でアルウィンに行っていたのですがあるアウェーツアー以降、軽く会釈したり、挨拶を交わす人が出来はじめてして今に至ります。それをお望みなら、アウェーバスツアーはひとつの、「きっかけ」になるのは間違いありません。

次回No.2は、「ゴール裏への行き方」です。(寄稿依頼がまたあったら)

[written by 40代山雅おやじ]

#7 川田 和宏

原曲：Brahman/deep

走れ川田 勝利のため 川田！ラララ ラーラーラーラ
決めるゴール その左で 川田！ラララ ラーラーラーラ

#10 柿本 倫明

原曲：ゴダイゴ/Beautiful Name

カキモト ミチアキ！ カキモト！ ミチアキ！

#11 吉田 賢太郎

Hi-STANDARD/Stay Gold

ラーラーラ 吉田賢太郎 get GOAL !
ラーラーラ 吉田賢太郎 get GOAL !

#19 阿部 琢久哉

原曲：映画『Song of the south』より「Zip-A-Dee-Doo-Dah」

俺たちのタクヤ ラーラーラララ ララララ
俺たちのタクヤ ララララーラ ララララ

#23 鈴木 亮平

原曲：TRIPLE CLUTCH/TASTE GOOD

鈴木亮平、亮平！俺たちのー 鈴木亮平！ ×2

#25 大西 康平

原曲：the band apart/snowscape

オーオ 大西康平！オーオ 大西康平！

#30 原 裕晃

原曲：矢沢永吉/止まらないHa~Ha

魅せてくれ！ (HA~RA!)

俺たちの！ (HA~RA!)

守護神！守護神、守護神 to win!

New song!